

作品講評【応募資格2】

※審査員特別賞は審査員を代表してイツキ氏に講評いただきました。

賞	受賞者氏名	作品名	審査員講評	
グランプリ	宮島諒匠 さん	色づく可能性	Oguro Takuya 氏	まずテーマとして、白のワンピースを、何にでもなれる、どんな色にも染まれる、"未熟な自分"に例える、その着眼点に感激しました。とても素敵なおテーマだと思います。ダイナミックな構図、レースや装飾品などの細かいディティールへのこだわり、飛び散った絵の具の質感表現、画力も文句なしです。これからの作品がもっと見たくなる素敵なお作品でした。
			イツキ 氏	絵の具を飛び散らせる表現が「無限の可能性」を感じさせ、力強さが伝わってきます！大胆な描写がその印象をさらに強調しています。反射光も意識されていることで作品の深みが増していますね。
			ピカタ 氏	この女の子があまりにも本当に楽しそうで、みていてこっちまで嬉しくなっちゃうような絵でした。色づく可能性というタイトルも最高です。
			おにぎりまん 氏	光や陰影のメリハリや、絵の具の光沢や変色している部分など表現知識が体系的に動員されている印象を受け感激しました。表現とテーマの結びつき方が非常に論理的でかつそれが作品を見たときのインパクトの強さに良い影響を与えられている点がとても好きです。
			Sen 氏	液体表現のダイナミックさと頭のバラやスカートのレースなどの細部に宿るこだわりがとてもいいなと思いました。色使いもよく楽しんでいるというキャラクターの表情に感銘を受けました。これからさらにいい絵が描けるよう頑張ってください。
			CRYBORG 氏	この絵は生きている。直感的にそう感じました。この絵の子はもちろん、絵の具も、服の皺も何もかもがこの絵のあるべきリズムというものに導かれて主体性というか肉体性をもって踊っている。それでいて楽しさだけは忘れずに、なんなら自分から波を起こしてやろうという、この世という暗闇に針を刺してみた時の輝きのようにあたしには見えました。「踊る」とはどんな姿にもなれるけれど、どんな形になろうとどんな感情になろうと、どれだけ軽やかに踊ろうと、どれだけ重厚さをもって執念深くなってみようと、魂だけは貫き通すという事を指すんじゃないかなとあたしは思うのです。今の世の中は正しい変わり方、正しい踊り方、正しい人生の描き方、何にでも正しさを求められがちでルールがあると思ってしまいがちだけれど、本当の正しさやそこに見出す意味は、それぞれの魂が踊りついた先に見つけても良い。そんな事を教えてくれる絵で、とっても素敵です。
準グランプリ	中村緋里 さん	風懐	Oguro Takuya 氏	アナログ特有の独特な柔らかさを持つ、素敵なお雰囲気が強く出ていてとても目を惹かれました。ガーベラのような美しい萌えるようなオレンジの髪、海のような綺麗なブルーの瞳、暖かみを感じる背景の黄色、使っている色が多くまとめるのが難しいものをここまで綺麗にまとめるのは誰でもできることはありません。脱帽です。僕自身花をモチーフに描くので、とても親近感が湧きました。花言葉っていいですね。
			イツキ 氏	髪の毛や花、瞳の塗り込みが素晴らしいです！ふわっとした毛先が優しい印象を与えています。花を画面外にはみ出すように大胆に配置したり、背景をさらに描き込むと、さらに魅力が増すと思います。
			ピカタ 氏	目がとにかく美しく、吸い込まれるくらいに青い瞳が特徴的だと感じました。包み込んでくれるような優しさを感じました。
			おにぎりまん 氏	髪や花びらで使用している絵の具の濃淡や立体感でアナログならではの動きがよく表現されていると感じました。また、背景や服装などで表現されている絵の具の滲みを利用したグラデーションも美しく、動的にも静的にもアナログの表現が豊かで観ていて楽しかったです。
			Sen 氏	アナログながらここまでふわっとした空気感の表現が出来ているのはすごく素晴らしいなと思いました。また輪郭の入る場所と入れない場所を描いて躍動感を取り入れているのも見事だと思いました。その着眼点を活かしてこれからも描いていってください。
			CRYBORG 氏	たくさんの方が重ねて塗り込まれたような画面の中にたくさんの方があって、そこには前向きになりたいという優しい気持ちや祝福的なムードもまたこの絵の中にたくさんあった事にとても目を惹かれました。前向きになりたいと願う気持ちに至るまでには、色々置いて行ったり何かを捨てて行ったりしないといけなかった事も多いと思います。この子が花を持ちながら折っているように見えたのは、それらを含めた全てに幸せを願っているようにも見えたからです。この子を見る先に何が見えるのだろうか。確かなのは、それは、水曜日の夜に「もっと自分を変えなきゃ、でもどうしたら良いんだろう」って絵の具を全部混ぜたような色の不安をお湯で流しながらずっとお風呂で考えてる時みたいな、土曜日に遅めに起きて「あとどれくらいこの安息が許されるんだろう」と思って作ったパンケーキみたいな、いずれ来る春を待って冬を耐える為に自室につけたエアコンみたいな温かさじゃなくて、もっと確かで、自分がその温かさを抱きしめて、或いは抱きしめられて良いんだと思える永遠に優しいもの。あたしも、その温かさを得る為に人生という作品作りを頑張りたいなと思います。
審査員特別賞	榎波莉呂 さん	未成みらい	イツキ 氏	多彩なモチーフの配置によって、未成年が抱える複雑な心境が巧みに表現されています。不安げな表情が観る者の心を引き込み、光と影のバランスも違和感なく描き上げる高い技術が感じられます。 榎波さんも今後、多くの壁に直面するかと思いますが、一つ一つ乗り越えた先には素晴らしい景色が広がっているでしょう。私自身もまだまだ未完成です。共に夢に向かって頑張っていきましょう！